

ビジネスマナー

授業の目的・概要

本授業では、動物業界への就職を目指す学生が、現場で求められる基本的なビジネスマナーおよび社会人基礎力を体系的に習得することを目的とする。自己紹介や校舎見学を通じて基本的な対人行動や施設利用マナーを学び、研修旅行の事前・事後学習により動物関連施設の理解を深め、就職先としての視点を養う。さらに、名刺交換や電話対応の実践、デジタル履歴書や挨拶文・お礼状の作成など、実務に直結するスキルを段階的に習得する。加えて、職種や業務内容、必要な知識・技術・姿勢についての理解を深めることで自己分析を促し、職業適性の把握とキャリア形成につなげる。

科	環境科学科	教員	荻野
コース	エコテクノロジーコース	教員の実務経験	社会人経験 8 年
対象年次	1 年	年間単位数	2 単位

目標

インターンシップに必要な書類の準備が適切に行えるようになる。

デジタル履歴書やお礼状、挨拶文、インターン前の電話などを一人でも充分に行えるようになる。

授業の計画

- 1 回 自主行動型自己紹介
- 2 回 校舎見学(受付の利用方法や券売機の使い方・エレベーターマナー)
- 3 回 研修旅行事前学習①—訪問先・施設調べ(グループワーク)、ルールブック読み合わせ
- 4 回 研修旅行事前学習②—就職先として見る視点・質問検討、学生要覧読み合わせ
- 5 回 研修旅行事後学習①—見学内容の整理と共有、名刺交換説明①
- 6 回 研修旅行事後学習②—就職先としての魅力と課題、名刺交換説明②
- 7 回 研修旅行事後学習③—就職先比較と理解の深化、名刺交換実践①
- 8 回 名刺交換実践②
- 9 回 デジタル履歴書作成方法①ダウンロード及び購入方法について
- 10 回 デジタル履歴書作成方法②個人情報
- 11 回 デジタル履歴書作成方法③学歴/職歴
- 12 回 デジタル履歴書作成方法④自己紹介書
- 13 回 デジタル履歴書作成方法⑤自己紹介書
- 14 回 挨拶文・お礼状作成①書き方
- 15 回 挨拶文・お礼状作成②実践
- 16 回 挨拶文・お礼状作成③実践

- 17回 仕事内容理解①—就職先に想定される職種（含 研修旅行事前学習）
- 18回 仕事内容理解②—職種別業務内容（含 研修旅行事前学習）
- 19回 仕事内容理解③—1日の仕事の流れ（含 研修旅行事前学習）
- 20回 仕事内容理解④—必要な知識・技術・姿勢（含 研修旅行事前学習）
- 21回 研修旅行事後学習①—仕事内容の整理
- 22回 研修旅行事後学習②—仕事のやりがい・大変さ
- 23回 研修旅行事後学習③—自分との適性を考える
- 24回 電話対応①電話機操作方法、話し方、電話例
- 25回 電話対応②実践 1 回目
- 26回 電話対応③実践 1 回目
- 27回 電話対応④実践 1 回目
- 28回 電話対応⑤実践 2 回目
- 29回 電話対応⑥実践 2 回目
- 30回 総復習、振り返り

授業の方法

学校生活や就職、今後のキャリア形成に繋がる講義を行う。

教材

自作プリントを適宜配布する。

評価の方法

期末試験 50%、授業の取り組み意欲 50%を総合的に評価する。

授業外での学習方法

配布しているルールブック、学生要覧、インターンのしおりを見て重要な部分はメモをとる。

インターンシップに参加するまでにデジタル履歴書を仕上げる。

実務経験と授業科目の関係

実際の就活経験や社会人経験を踏まえ、学生のキャリア形成を支える。

コンピューター実習 I

授業の目的・概要

Microsoft Word: 基本的なビジネス文書の作成から、外部アプリケーションとのデータ連携（差し込み印刷等）に至るまで、実務に即した諸機能を習得する。

Microsoft Excel: 表計算の基礎からデータベース機能を活用した一連の操作を学習し、目的に応じた適切なデータ分析を行うための技術を習得する。

Microsoft PowerPoint: 効果的なプレゼンテーション資料の作成から、スライドショーを用いた説得力のある発表技術まで、一連の機能を習得する。

科	環境科学科	教員	大西 望
コース	エコテクノロジーコース	教員の実務経験	講師経験：10 年、PC サポート 13 年
対象年次	1 年	年間単位数	1 単位

目標

前期：

- パソコン操作に必要なマウス操作、タッチタイピングの習得
- Microsoft PowerPoint を使用して、基本的なプレゼンテーションの作成を行える。
- Microsoft Word を使用して、ビジネス文書の作成が行える。

後期：

- Microsoft Excel を使用して、計算式・関数の計算、グラフの作成を行える。

授業計画

前期

第 0 1 回：オリエンテーリング授業概要、評定基準、Google 共有ドライブ「2026 年度」の使い方

第 0 2 回：Windows の概要、フォルダとファイルの管理、マウス操作

第03回:PowerPoint(1) PowerPointの概要、起動、画面構成、表示モード、新規作成、テーマの適用、プレースホルダーを操作する、新しいスライドを挿入する、箇条書き

第04回:PowerPoint(2) 図形の挿入、SmartArt、練習問題

第05回:PowerPoint(3) スライドショー実行、画面切り替え、アニメーション、プレゼンテーションの印刷、発表者ツールを使用、練習問題

第06回:PowerPoint(4) PowerPointの振り返り

第07回:Word(1) 作成する文書を確認する、ページレイアウト、文書入力、文字の削除、挿入

第08回:Word(3) 段落とフォントの調整コピー、移動、文書の保存、文章の書式を設定、文書の印刷、練習問題

第09回:Word(4) 文書作成の振り返り

第10回:Word(5) ワードアート、画像データの挿入、文字列の折り返し、トリミング、サイズと位置の調整、

第11回:Word(6) 表現力のある文書を作成しよう②オブジェクト、画像挿入の振り返り

第12回:Word(7) 表のある文書を作成しよう表の作成、レイアウト、書式設定

第13回:Word(7) 表のある文書を作成しよう①第3、4章の振り返り、答え合わせ

第14回:Word(8) 表のある文書を作成しよう②第3、4章の振り返り、答え合わせ

第15回:Word(9) 期末試験対策

第16回:確認テスト

第17回:自主学習: Wordでポスターを作る方法をレポートにまとめる。

第18回:前期期末試験の返却

後期

第19回:後期授業概要、評価基準

第20回:Excel(1) Excelの概要、起動、画面構成、新規作成、データや数式の入力、オートフィル、書式のコピー

第21回:Excel(2) データや数式の入力の振り返り

第22回:Excel(4) オートSUM関数、相対参照と絶対参照、表の書式設定、行列操作、印刷

- 第 23 回 :Excel (6) 関数や相対参照と絶対参照の振り返り
- 第 24 回 :Excel (7) 円グラフ、縦棒グラフの作成
- 第 25 回 :Excel (8) グラフ作成の振り返り第 1 週
- 第 26 回 :Excel (8) グラフ作成の振り返り第 1 週
- 第 27 回 :Excel (9) テーブル機能、並び替え、フィルター、条件付き書式
- 第 28 回 :Excel (10) データベース機能の振り返り
- 第 29 回 :Word の差し込み印刷
- 第 30 回 :外部アプリからのデータを貼り付け
- 第 31 回 :Excel (11) 期末試験対策①データ入力、関数、グラフの振り返り
- 第 32 回 :Excel (12) 期末試験対策②データベース機能の振り返り
- 第 33 回 :確認テスト
- 第 34 回 :自宅学習②各種類のグラフの用途をレポートにまとめる
- 第 35 回 :確認テスト返却

授業の方法

コンピューターによる演習

教材

『よくわかる Word2024 & Excel2024 & PowerPoint2024 Office2024/Microsoft365 対応』
(株式会社富士通ラーニングメディア、2025 年 4 月 13 日、ISBN978-4-86775-152-7)

評価の方法

平常点、試験点をそれぞれ 100 点満点で成績を集計し、評価する。

- 平常点：Google 共有ドライブ「2026 年度」内に指定のファイルがあることことこと
- 試験点：前期・後期期末試験で集計した成績

授業外での学習方法

授業範囲の操作内容を確認し、Word・Excel・PowerPoint の基本機能や用語を事前に理解しておくことも

に、授業で学んだ操作を復習し、課題や練習問題を通して基本操作を繰り返し実践する。

実務経験と授業科目の関係

官公庁や教育機関での豊富な指導経験を基に、単なる機能紹介に留まらず、業務のスピードアップに直結する Microsoft アプリの効率的な活用法を伝授します。

事務処理や資料作成の現場で培った「ミスなく早く仕上げる」ための実戦ノウハウを共有し、実社会で通用する即戦力の育成を目指します。

資格対策Ⅰ

授業の目的・概要

本資格の1、2級は調査会社の業務入札として環境省が承認している。また動物の幅広い知識が問われる水族館、動物園業界でも本資格を有すること大切である。4級は生物の初歩的な知識、3級は植物から脊椎動物までの幅広い知識が問われます。本講義で生物の知識を体系的に学ぼう。

科	環境科学科	教員	佐崎 順
コース	エコテクノロジーコース	教員の実務経験	専門学校教員 33 年
対象年次	1 年	年間単位数	2 単位

目標

＊生物分類技能検定4級・3級の資格取得のための必要な知識を身に付けることができる。

（前期で4級、後期で3級の学習を行う）

授業計画

- 第1週 生物の名前（和名、英名、地方名、学名）
- 第2週 生物の分類①（分類の方法、階級、種、）
- 第3週 生物の系統①（原核生物とは：特徴、具体例、生物分類4級レベル）
- 第4週 生物の系統②（原生生物、菌界とは：特徴、具体例、生物分類4級レベル）
- 第5週 生物の系統③（植物界とは①：特徴、具体例、生物分類4級レベル）
 顕花植物、単子葉植物、双子葉植物とは
- 第6週 生物の系統④（植物界とは②：特徴、具体例、生物分類4級レベル）
 栄養根の塊根、塊茎とは
- 第7週 生物の系統⑤（植物界とは③：特徴、具体例、生物分類4級レベル）
 葉のつき方、葉の形などの単葉・複葉、花の枚数など
- 第8週 生物の系統⑥（植物界とは④：特徴、具体例、生物分類4級レベル）
 分類群ごとの特徴（アブラナ科、キク科など）
- 第9週 生物の系統⑦（動物界とは①：特徴、具体例、生物分類4級レベル）
 は哺乳類、鳥類
- 第10週 生物の系統⑧（動物界とは②：特徴、具体例、生物分類4級レベル）
 鳥類、両生類、は虫類 分類群ごとの特徴

- 第 11 週 生物の系統⑨（動物界とは③：特徴、具体例、生物分類 4 級レベル）
魚類、水生生物 分類群ごとの特徴
- 第 12 週 生物の系統⑨（動物界とは③：特徴、具体例、生物分類 4 級レベル）
昆虫類①：昆虫綱と軟角綱の違い、分類群ごとの特徴
- 第 13 週 生物の系統⑩（動物界とは③：特徴、具体例、生物分類 4 級レベル）
昆虫類② 分類群ごとの特徴
- 第 14 週 過去問と解説①
- 第 15 週 過去問と解説②
- 第 16 週 5 界説のおさらい、学名について①（2 名法、3 名法、表記法など）
- 第 17 週 学名について②（命名者、改名、変種名、タイプ標本など）
- 第 18 週 ほ乳類について①（日本の生息数、特徴、絶滅種、外来種）
- 第 19 週 ほ乳類について②（ネズミ目、トガリネズミ目など）
- 第 20 週 鳥類について①（形態学的特徴、夏鳥、冬鳥など）
- 第 21 週 鳥類について②（生息域、行動、餌の種類、外来種、絶滅危惧種）
- 第 22 週 両生類・ハ虫類について①（形態学的特徴、外来種、在来種）
- 第 23 週 両生、は虫類について②（生息域、繁殖について）
- 第 24 週 水生生物①（海産無脊椎動物～鯨類までの各分類の特徴）
- 第 25 週 水生生物②（海産無脊椎動物、特に魚類の特徴、外来種、生息域、餌の種類）
- 第 26 週 昆虫類①（分類学的特徴、形態学的特徴）
- 第 27 週 昆虫類②（翅、足などの特徴、生息域、冬眠、外来種、在来種、絶滅危惧種など）
- 第 28 週 植物①（分類学的特徴、栽培品種とその分類）
- 第 29 週 植物②（草花、樹木などの特徴、開花時期など）
- 第 30 週 植物③（外来種、絶滅危惧種、特徴的な生態について）

授業の方法

- * 本講義では、具体的な例を挙げて説明する
- * 過去問を多く解く

教材

- * ニューステージ 新生物図表（浜島書店、2026）
- * 2026 年度 生物分類技能検定試験問題集 3・4 級（自然環境研究センター、2026）
- * 授業で使用する教材は、必要に応じて授業内で適宜配布する。

評価の方法

- *試験 50%、授業への参画 20%、課題への取り組み 10%、実技 20%で総合的に評価する。
- *前・後期一回ずつ抜き打ちでノートチェックを行う。講義内容だけでなく、事後学習の内容も確認する

授業外での学習方法

- *事後授業として、授業内で疑問に思ったことを抽出し、自身で調べその結果をノートに書き出そう
- *授業だけでなく、普段の生活の中で身近な生物（昆虫、鳥類、植物など）に関心をもって観察する

実務経験と授業科目の関係

- *生物分類技能検定 3 級資格保有
- *海洋生物（魚類、サンゴなど）の調査・研究の経験あり
- *環境省 みどりの国勢調査 静岡県 調査責任者（1995 年度）

人間形成概論

授業の目的・概要

人間関係に関する基礎知識を持ち、基礎的なコミュニケーションスキルを会得することにより、
生き物を扱う職務を遂行する社会人として、良好な人間関係を構築できる応用力を修得する。

科	環境科学科	教員	長岡 真美 森田 駿介
コース	エコテクノロジーコース	教員の実務経験	-
対象年次	1 年	年間単位数	1 単位

目標

多種多様な価値観を持つ他者の存在を認め、円滑な対人関係を築くための基本的な視点を養うことができる。

グループワークや用語を知り、自身がどのような環境や経験を経て、現在の価値観を形成してきたかを分析することができる。

授業計画

- 1 回 講師の自己紹介、生徒同士の自己紹介
- 2 回 ディスカッションのやり方・PREP 法について
- 3 回 パーソナリティについて
- 4 回 対人認知 ステレオタイプ(1)-対人認知について
- 5 回 対人認知 ステレオタイプ(2)-原因帰属、対人魅力について
- 6 回 人間関係とコミュニケーション(1)-人間関係、コミュニケーションについて
- 7 回 人間関係とコミュニケーション(2)-言語的 or 非言語的コミュニケーションをグループで学ぶ
- 8 回 インターネット依存症について
- 9 回 感情について

- 10 回 ストレスについて(1)-ストレスとは
- 11 回 ストレスについて(2)-ストレスへの対処法とは
- 12 回 人生曲線を書き、過去と未来の自分を見つめてみる
- 13 回 アサーショントレーニングについて
- 14 回 前期まとめ(1)-前期授業のまとめ
- 15 回 前期まとめ(2)-前期内容についてのまとめ問題を実施
- 16 回 援助行動、要請に関する社会的スキル
- 17 回 交流分析とマインドフルネス(1)-コミュニケーションを理解する観察法
- 18 回 交流分析とマインドフルネス(2)-交流パターンの分析について
- 19 回 カウンセリング、悩み相談について(1)-カウンセリングと悩み相談について
- 20 回 カウンセリング、悩み相談について(1)-グループワークで実際に悩み相談を行って学ぶ
- 21 回 動機付け(1)-欲求、動機付けについて
- 22 回 動機付け(2)-情動、自己効力感について
- 23 回 集団について(1)-集団規範とは
- 24 回 集団について(2)-他者から与えられる影響について
- 25 回 コーチングについて
- 26 回 リーダーシップ(1)-リーダーシップの歴史について
- 27 回 リーダーシップ(2)-仕事での集団の形について
- 28 回 人間関係を難しくする障害
- 29 回 後期まとめ(1)-後期授業のまとめ
- 30 回 後期まとめ(2)-後期内容についてのまとめ問題を実施

授業の方法

講義、問題についてのレポートや討論、グループワーク

教材

山蔦圭輔 本田周二『メディカルスタッフのための基礎からわかる人間関係論』（南山堂、2021 年）
ISBN 978-4-525-50451-9

評価の方法

試験 80%、授業への参画 10%、課題への取り組み 10%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

身の回りの事象が、授業内容とどのように関係しているのかを意識することと、

試験へ向けて、授業で出てきた用語をまとめる。

実務経験と授業科目の関係

-

陸上実習Ⅰ

授業の目的・概要

本授業では、バレーボール、バドミントン、バスケットボールなどの各種スポーツ実技を通して、基礎的な運動技能の習得と体力の向上を図るとともに、集団での協調性やコミュニケーション能力を養うことを目的とする。授業は基礎練習から段階的に実施し、個人練習、ペア練習、チーム練習を経て試合形式へと発展させることで、技術の定着と実践力の向上を目指す。また、前期には体力テストや走力トレーニングを行い、基礎体力の把握と向上を図る。さらに、種目横断的な実技経験を通じて、スポーツへの理解を深め、継続的な運動習慣の形成と心身の健全な発達につなげる。

科	環境科学科	教員	高橋
コース	エコテクノロジーコース	教員の実務経験	・
対象年次	1 年	年間単位数	2 単位

目標

心と体を一体にし、身体的な面だけでなく、どのような状態や感情で体の動き方が変わるのかを理解できる。

体の運動促進や健康状態を知り、その中で体を動かすことの楽しさや体力の向上を図り、様々な場で順応できる身体に仕上げることができる。

授業計画

- 第1週 授業説明・自己紹介（授業の実施方法 アイスブレイク）
- バレーボール実技① 練習（一人での基礎練習 ゴール取り方 投げ方 姿勢 サーブ練習）
- 第2週 バレーボール実技② 練習（周りと話し合いながらの練習 ゴール取り方 投げ方 姿勢 サーブ練習）
- 第3週 バレーボール実技③ 練習（ペアになって練習 ゴール取り方 投げ方 姿勢 サーブ練習）
- 第4週 バレーボール実技④ 練習（チームに分かれて、軽い試合形式で基礎練習を順に行う）
- 第5週 バレーボール実技⑤ 試合（チーム分けをおこない 本格的な試合の開始）
- 第6週 スポーツ大会のための基礎体力作り おこなう科目の練習
- 第7週 スポーツ大会のための基礎体力作り おこなう科目の練習
- 第8週 バドミントン実技① 練習（一人での基礎練習 ゴール取り方 打ち方 打つときのコツ サーブ練習）
- 第9週 バドミントン実技② 練習（周りと話し合いながらの練習 ゴール取り方 打ち方 打つときのコツ サーブ練習）
- 第10週 バドミントン実技③ 練習（ペアになって練習 ゴール取り方 打ち方 打つときのコツ サーブ練習）
- 第11週 バドミントン実技④ 練習（チームに分かれて、軽い試合形式で基礎練習を順に行う）
- 第12週 バドミントン実技⑤ 試合（チーム分けをおこない 本格的な試合の開始）

- 第13週 前期試験練習① テストのための体力作り
 第14週 前期試験練習② テストのための体力作り
 第15週 前期試験練習③ テストのための体力作り
 第16週 前期試験期間：体力テスト （握力テスト 反復横跳び 立ち幅跳び）
 第17週 前期試験採点期間 自由実技 個人スポーツや団体スポーツなどの試合
 第18週 前期試験返却期間 自由実技 個人スポーツや団体スポーツなどの試合
 第19週 バスケットボール実技① 練習（一人での基礎練習 ボール運び方 ドリブルの仕方 サーブ練習 シュート練習）
 第20週 バスケットボール実技② 練習（周りと話し合いながらの練習 ボール運び方 ドリブルの仕方 サーブ練習 シュート練習）
 第21週 バスケットボール実技③ 練習（ペアになって練習 ボール運び方 ドリブルの仕方 サーブ練習 シュート練習）
 第22週 バスケットボール実技④ 練習（チームに分かれて、軽い試合形式で基礎練習を順に行う）
 第23週 バスケットボール実技⑤ 試合（チーム分けをおこない 本格的な試合の開始）
 第24週 バレーボール実技 試合
 第25週 バドミントン実技 試合
 第26週 バスケットボール実技 試合
 第27週 前期試験練習① テストのための体力作り 外周や走り込み
 第28週 前期試験練習② テストのための体力作り 外周や走り込み
 第29週 前期試験練習③ テストのための体力作り 外周や走り込み
 第30週 前期試験期間：体力テスト （シャトルラン）
 第31週 前期試験採点期間 自由実技 個人スポーツや団体スポーツなどの試合
 第32週 前期試験返却期間 自由実技 個人スポーツや団体スポーツなどの試合
 第33週 バスケットボール実技 試合
 第34週 バドミントン実技 試合
 第35週 バレーボール実技 試合

授業の方法

基礎体力作りや練習試合などをおこない、実習をおこなう。

教材

とくになし

評価の方法

授業参加 10%、実技での取り組み（試合に参加できているかなど）40%、授業態度 20%、試験 30%

授業外での学習方法

動画や、本などで身体の動き方を学ぶ。

体力をつけるために1分運動などで、身体を動かすことを日常化させ、身体に学習させていく

実務経験と授業科目の関係

-

インターンシップ I

授業の目的・概要

本授業は、動物業界への就職を目指す学生が、インターンシップを通じて実際の職場環境を体験し、専門知識・技術の実践力を養うことを目的とする。動物病院、ペットショップ、トリミングサロン、ペットホテル、動物福祉施設などの現場において、動物の飼養管理や健康観察、接客対応、衛生管理、チームでの業務遂行などを経験し、職業人として求められる責任感やコミュニケーション能力を身に付ける。また、現場での体験を通じて自己の適性や課題を把握し、将来の進路選択や就職活動に役立てることを目指す。事前指導では職業倫理や安全管理について学び、実習後には振り返りと成果報告を行うことで、学習成果の定着とキャリア形成につなげる。

科	環境科学科	教員	林
コース	エコテクノロジーコース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年次	年間単位数	1 単位

目標

- ・動物業界の現場における業務内容や役割を理解し、基本的な業務を適切に実践できる。
- ・動物の飼養管理、健康観察、衛生管理などに関する実践的な知識・技術を身に付ける。
- ・職業人として必要なビジネスマナー、コミュニケーション能力、協調性を身に付け、円滑に行動できる。
- ・インターンシップで得た経験を振り返り、自身の適性や課題を把握するとともに、将来の進路選択や就職活動に活かすことができる。

授業計画

- 第 1 回 インターンシップ概要説明・目的理解・受入先の紹介
- 第 2 回 ビジネスマナー・職業倫理・安全管理・注意事項説明
- 第 3 回 インターンシップ① 施設理解とオリエンテーション

第 4 回	インターンシップ②	施設見学と業務内容の把握
第 5 回	インターンシップ③	接客・来客対応の補助
第 6 回	インターンシップ④	電話対応・受付業務の補助
第 7 回	インターンシップ⑤	施設内清掃・衛生管理業務
第 8 回	インターンシップ⑥	飼育環境の整備と安全確認
第 9 回	インターンシップ⑦	動物の健康観察と記録
第 10 回	インターンシップ⑧	給餌・給水業務の補助
第 11 回	インターンシップ⑨	動物の保定補助
第 12 回	インターンシップ⑩	日常ケア業務の補助
第 13 回	インターンシップ⑪	施設備品・消耗品管理
第 14 回	インターンシップ⑫	顧客対応・コミュニケーション実践
第 15 回	インターンシップ⑬	チーム業務への参加
第 16 回	インターンシップ⑭	担当業務の実践①
第 17 回	インターンシップ⑮	担当業務の実践②
第 18 回	インターンシップ⑯	担当業務の実践③
第 19 回	インターンシップ⑰	担当業務の実践④
第 20 回	インターンシップ⑱	担当業務の実践⑤
第 21 回	インターンシップ⑲	担当業務の実践⑥
第 22 回	インターンシップ⑳	担当業務の実践⑦
第 23 回	インターンシップ㉑	担当業務の実践⑧
第 24 回	インターンシップ㉒	担当業務の実践⑨
第 25 回	インターンシップ㉓	担当業務の実践⑩
第 26 回	インターンシップ㉔	担当業務の実践⑪
第 27 回	インターンシップ㉕	担当業務の実践⑫
第 28 回	インターンシップ㉖	担当業務の実践⑬
第 29 回	インターンシップ㉗	担当業務の実践⑭
第 30 回	インターンシップ㉘	担当業務の実践⑮

- 第 31 回 インターンシップ②③ 担当業務の実践⑥
- 第 32 回 インターンシップ②③ 担当業務の実践⑦
- 第 33 回 インターンシップ②③ 担当業務の実践⑧
- 第 34 回 インターンシップ②③ 総合実践・就業力向上
- 第 35 回 インターンシップ成果報告会・振り返り・自己評価と今後の課題整理

授業の方法

インターンによる実践。

教材

必要な資料を概要説明時に配布する。

評価の方法

インターンへの参加意欲 20%、企業の評価 50%、レポート提出 30%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

事前学習では、受入先の業務内容や業界動向について調べるとともに、ビジネスマナーや安全管理、動物の飼養管理に関する基礎知識を復習する。事後学習では、実習日誌や記録を整理し、実習で得た知識・技術や課題を振り返ることで理解を深め、今後の学習や就職活動に活かす。

実務経験と授業科目の関係

教育・研究に従事するとともに、大学生の進路指導やキャリア支援に携わった経験を有する。本授業では、その経験を活かし、インターンシップにおける職業意識の形成や社会人基礎力の向上を支援するとともに、実習経験を将来の進路選択や就職活動につなげるための指導を行う。

特別活動Ⅰ

授業の目的・概要

学校行事への参加を通じて、専門分野への理解を深めるとともに、協調性や主体性、社会性を養う。各種行事における事前準備、参加、振り返りを通じて学びを深化させ、将来の職業人として必要な資質の向上を目指す。

科	環境科学科	教員	林
コース	エコテクノロジーコース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年次	年間単位数	1 単位

目標

- ・学校行事の目的や意義を理解し、主体的に参加できる。
- ・行事を通じて専門分野への理解を深め、学びを実践に結び付けることができる。
- ・他者と協力しながら活動に取り組み、協調性や社会性を身に付ける。
- ・行事で得た経験を振り返り、自己の成長や課題を今後の学習・進路選択に活かすことができる。

授業計画

- 第 1 回 特別活動の目的と年間計画の理解
- 第 2 回 学校行事に参加する意義と学習目標の設定
- 第 3 回 研修旅行事前学習①（研修目的の理解）
- 第 4 回 研修旅行事前学習②（訪問先・業界研究）
- 第 5 回 研修旅行事前学習③（グループ活動計画の作成）
- 第 6 回 研修旅行事前学習④（安全管理・マナーの確認）
- 第 7 回 研修旅行事前学習⑤（事前調査の共有）
- 第 8 回 研修旅行への参加
- 第 9 回 研修旅行振り返り①（体験内容の整理）

- 第 10 回 研修旅行振り返り②（学習成果の共有）
- 第 11 回 校外実習事前学習①（実習目的の理解）
- 第 12 回 校外実習事前学習②（実習先研究）
- 第 13 回 校外実習事前学習③（安全管理とマナー）
- 第 14 回 校外実習事前学習④（学習課題の設定）
- 第 15 回 校外実習への参加
- 第 16 回 校外実習振り返り①（活動内容の整理）
- 第 17 回 校外実習振り返り②（成果と課題の分析）
- 第 18 回 KAP エキスポ事前学習①（イベントの目的と業界動向の理解）
- 第 19 回 KAP エキスポ事前学習②（企業研究・出展内容の確認）
- 第 20 回 KAP エキスポ事前学習③（見学計画の作成）
- 第 21 回 KAP エキスポ事前学習④（質問事項の作成）
- 第 22 回 KAP エキスポへの参加
- 第 23 回 KAP エキスポ振り返り①（見学内容の整理）
- 第 24 回 KAP エキスポ振り返り②（学習成果の共有）
- 第 25 回 卒業研究発表会事前学習①（研究テーマの理解）
- 第 26 回 卒業研究発表会事前学習②（発表の着眼点と評価方法）
- 第 27 回 卒業研究発表会事前学習③（専門知識の整理）
- 第 28 回 卒業研究発表会への参加
- 第 29 回 卒業研究発表会振り返り・学習成果の共有
- 第 30 回 年間活動の総括（自己評価・今後の目標設定）

授業の方法

演習形式で進めていき、グループワークや意見交換を積極的に取り入れていく。

教材

特にないが、必要に応じて資料を配布していく。

評価の方法

授業への参画 30%、成果発表 50%、レポート提出 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

事前学習では、各行事の目的や内容、関連する業界・専門知識について調査し、学習課題を明確にする。
事後学習では、活動記録やレポートを作成し、得られた知識や気づきを整理するとともに、自身の成長や課題を振り返り、今後の学習や進路形成に活かす。

実務経験と授業科目の関係

教育・研究に従事するとともに、大学生の進路指導やキャリア支援に携わった経験を有する。本授業では、その経験を活かし、各種学校行事への参加を通じた主体的な学びや職業意識の形成を支援する。また、活動前後の目標設定や振り返りを通じて、行事で得た経験を自己成長やキャリア形成につなげられるよう指導を行う。

基礎生物学

授業の目的・概要

本授業では、動物業界で必要となる基礎的な生物学の知識を体系的に学ぶ。細胞の構造や代謝、DNA・遺伝など生命現象の基本原則を理解するとともに、循環器系・消化器系・神経系・内分泌系・免疫など動物の体内環境維持の仕組みについて学修する。さらに、生物の分類や多様性、生態系との関わりを通して、生命を総合的に理解する力を養う。講義を通じて、動物看護、飼育、トリミングなど各分野で必要となる科学的思考力と基礎知識を身につけ、動物の健康管理や福祉に活かせる基盤形成を目的とする。

科	生命科学科	教員	鈴木 春雄
コース	エコテクノロジーコース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年	年間単位数	1 単位

目標

前期…生体を構成する細胞をはじめ、組織、遺伝子、主な臓器について理解することができる。

後期…生体防御、体内環境の維持、神経系、内分泌系等の仕組み等について理解することができる。

授業計画

第1回 生物の多様性と共通性

第2回 細胞の構造（1）

第3回 細胞の構造（2）

第4回 生体を構成する物質

第5回 代謝とエネルギー

第6回 酵素の働き

第7回 遺伝情報と DNA

第8回 体細胞分裂

第9回 遺伝情報の発現

第 10 回 減数分裂

第 11 回 恒常性、体液、循環器系

第 12 回 動物の循環、循環器系

第 13 回 肝臓の働き、腎臓の働き

第 14 回 腎臓の働き、消化器系の働き

第 15 回 まとめ

第 16 回 生体防御 (1)

第 17 回 生体防御 (2)

第 18 回 生体防御 (3)

第 19 回 神経系

第 20 回 自律神経(交感神経、副交感神経)、体性神経

第 21 回 内分泌系(1)

第 22 回 内分泌系(2)

第 23 回 体内環境維持の仕組み(1)

第 24 回 体内環境維持の仕組み(2)

第 25 回 生物の分類

第 26 回 生物の多様性(原核生物界、原生生物界等)

第 27 回 まとめ

第 28 回 生物の多様性と生態系(1)

第 29 回 生物の多様性と生態系(2)

第 30 回 1 年間の総まとめ

授業の方法

教材と板書

教材

浜島書店『生物図表』

評価の方法

期末試験 80%、平常点 20%(授業への参加態度)で総合的に判断する

授業外での学習方法

事前学習として教科書の該当範囲を読み、専門用語や基本事項を確認して授業に臨む。事後学習では、授業内容を復習し、重要事項や仕組みを整理するとともに、演習問題等を通して理解を深める

実務経験と授業科目の関係

・

環境関連法規 I

授業の目的・概要

関連する法律を理解し、知らずに違法行為をすることを回避し、業務において適切な判断と行動ができるようになる。特に、日本で自然環境・野生生物分野に関わるうえで必要となる関連法制度の基本を理解する。

科	環境科学科	教員	鈴木愛
コース	エコテクノロジーコース	教員の実務経験	国内外での保全 20 年程度
対象年次	1 年	年間単位数	1 単位

目標

約 10 程度の現行の法律の基本的な考えを理解し学び、違法行為の判断ができる。

生物種の保全や管理、生息地の保全を行うとき、準拠するべき法律を説明することができる。

授業計画

- 1 回 アイスブレイク、自然環境とは？
- 2 回 自然環境法の目標と基本的な考え方
- 3 回 環境規制の法的アプローチ
- 4 回 生物多様性条約
- 5 回 生物多様性条約（ABS）
- 6 回 生物多様性国家戦略
- 7 回 日本の野生生物保護体系
- 8 回 種の保存法（法律の概要）
- 9 回 種の保存法（国内希少種の事例）
- 10 回 種の保存法（国際希少種の事例）
- 11 回 鳥獣管理法（法律の概要）

- 12 回 鳥獣管理法（事例）
- 13 回 文化財保護法、文化財保護条例（法律の概要）
- 14 回 文化財保護法、文化財保護条例（事例）
- 15 回 グループワーク（作業）
- 16 回 グループワーク（発表）
- 17 回 グループワーク（ふりかえり）
- 18 回 自然公園法（法律の概要）
- 19 回 自然公園法（事例）
- 20 回 森林法（法律の概要）
- 21 回 森林法（事例）
- 22 回 水系管理に関する法律（法律の概要）
- 23 回 水系管理に関する法律（事例）
- 24 回 漁業に関する法律（法律の概要）
- 25 回 漁業に関する法律（事例）
- 26 回 外来生物法（法律の概要）
- 27 回 外来生物法（事例）
- 28 回 グループワーク（作業）
- 29 回 グループワーク（発表）
- 30 回 グループワーク（ふりかえり）

授業の方法

対面での講義（説明、探究課題、グループワークなど）

教材

神山智美（2024）自然環境法を学ぶ 第2版、文真堂 ISBN 978-4-8309-5272-2

評価の方法

授業での取り組み（授業冒頭での発表）：30%（各回1%）

2026 年度

定期試験（前期・後期）：50％（各回 25％）

グループワークでの発表 2 回：20％（各回 10％）

授業外での学習方法

授業で興味を持ったことを調べる（次の授業の冒頭で、それぞれ発表してもらいます）

実務経験と授業科目の関係

国内外の保全実践における法律運用に関する知見

自然環境保全学Ⅰ

授業の目的・概要

SDGs やネイチャーポジティブなどの世界的な目標を達成するためには、私たちひとりひとりが、「地球市民（global citizen）」として環境保全に対する意識を高めなければなりません。この授業では、自然環境から私たちが受けている恩恵（生態系サービス）について学びます。また、自然生態系の成り立ち、生物多様性、生物間相互作用、物質生産、資源循環などの生態系機能についての理解を深め、これらを保全するために何が必要か考えます。行政の環境、造園、林業職をはじめ、建設・環境コンサルタント、公園管理などの企業に就職する人材に必要な基礎知識および観察力を身に着けることを目的とします。

就職をキーワードに、学生が就職に近づけるよう記述にする（科目を通して育成したい人物像）。

*主語は学生（～について説明します、講義します、など教員が主語となる書き方はNG）。

*授業の手段を記載するわけではないことに注意。

科	環境科学科	教員	石井 弘明
コース	エコテクノロジーコース	教員の実務経験	○
対象年次	1年	年間単位数	1単位

目標

- ・自然環境の恩恵（生態系サービス）について理解し、それを持続するために行動できるようになる。
- ・生態系の構造と機能を理解し、これを保全するために行動できるようになる。
- ・生態系を構成する生物の多様性と相互作用について理解し、野生生物と人間が共存できる社会の実現に寄与できる人材となる。
- ・森林をはじめとする日本の自然環境に関する基礎知識を身に着け、関係する環境問題の解決に取り組める人材になる。

授業計画

- 第1回 地球環境とサステイナブルな未来
- 第2回 エコロジカルフットプリント1：環境負荷
- 第3回 エコロジカルフットプリント2：持続可能な資源利用とは？
- 第4回 生態系サービス1：森林の水循環と水源林
- 第5回 生態系サービス2：生態系サービスとその評価法
- 第6回 生態系サービス3：環境税
- 第7回 生態系の炭素循環1：炭素は貯まる
- 第8回 生態系の炭素循環2：炭素貯金のすすめ
- 第9回 生態系の窒素循環1：窒素はリサイクル
- 第10回 生態系の窒素循環2：分解系の生態学
- 第11回 保全生態学1：孤立生態系の生物多様性
- 第12回 保全生態学2：外来種と偏向遷移
- 第13回 保全生態学3：環境アセスメントと生態系復元
- 第14回 保全生態学4：生物多様性オフセット
- 第15回 復習・総括
- 第16回 植生を決定する要因
- 第17回 世界の植生帯
- 第18回 日本の植生：自然林、二次林、人工林
- 第19回 植物群集と個体群
- 第20回 温暖化と植生分布
- 第21回 生態系の構造
- 第22回 生態系の動態：植生遷移
- 第23回 生物間相互作用1：個体間競争
- 第24回 生物間相互作用2：送粉と種子散布
- 第25回 樹木の進化と分類

第 26 回 葉序と分枝

第 27 回 葉の構造と光合成

第 28 回 樹木の水利利用

第 29 回 樹木病害と樹木医の仕事

第 30 回 復習・総括

授業の方法

教科書、パワーポイント、プリントを用いた講義形式

教材

教科書：石井弘明編『森林生態学』（朝倉書店 2024）

その他、授業で使用する教材については、必要に応じて授業中に適宜配布していく。

評価の方法

授業への参画 50%、試験 25%、課題への取り組み 25%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

次の単元で扱う教科書の該当部分を読み、太字で記されたキーワードを予め調べてノートにまとめておくことを事前学習とする。また、事後学習として、教科書に記された課題および授業で課された宿題に取り組むとともに、自分で調べてみた結果をノートに整理しておくこと。

実務経験と授業科目の関係

担当教員は、米国の大学院で生態系解析学（Ecosystem Analysis）の Ph.D. を取得した。自然環境のしくみや生態系の機能に関する知識を運用し、神戸大学で学生指導にあたりるとともに、神戸市域の約 40% を占める六甲山系における自然環境保全事業や環境アセスメント事業の評価、西宮市文化財保護委員会における天然記念物保護の検討などに関わってきた。この授業では、これらの経験を活かし自然環境を保護し人間と自然が共存する未来の実現に貢献できる人材の育成に努めていく。

潜水士

授業の目的・概要

本授業では、潜水士資格取得に必要な基礎知識を体系的に学ぶ。水圧や気体の法則など潜水に関わる物理学的原理を理解するとともに、潜水器具や送気設備、各種潜水方法の特徴について学修する。さらに、高気圧障害の発生機序や予防法、心肺蘇生法など安全管理に必要な知識を身につけ、潜水作業における危険予知能力を養う。また、潜水業務に関連する法令や規則について理解し、安全かつ適切に潜水作業を実施できる能力を育成する。過去問題演習を通して資格試験対策を行い、潜水士試験合格を目指す。

科	環境科学科	教員	佐崎 順
コース	エコテクノロジーコース	教員の実務経験	専門学校教員 33 年
対象年次	1 年	年間単位数	1 単位

目標

＊潜水士の資格取得を目指し、1 年次終了までに本資格の取得を目指すことができる。

授業計画

- 1 回 潜水の範囲と圧力（水圧、絶対圧力、ゲージ圧力）を理解する①
- 2 回 潜水の範囲と圧力（水圧、絶対圧力、ゲージ圧力）を理解する②
- 3 回 ボイルの法則を理解し、計算することができる。
- 4 回 シャルルの法則、ダルトンの法則を理解し、計算することができる。
- 5 回 アルキメデスの法則を理解し、計算することができる
- 6 回 パスカルの法則、水中での物の見え方を理解する
- 7 回 水中で利用するポンペに充填されている気体（酸素、窒素、二酸化炭素、一酸化炭素、ヘリウムなど）の性質を理解①
- 8 回 水中で利用するポンペに充填されている気体（酸素、窒素、二酸化炭素、一酸化炭素、ヘリウムなど）の性質を理解②
- 9 回 潜水器（硬式潜水、軟式潜水）、潜水方法（トライミクス潜水、ナイトロックス潜水、バウンス潜水、飽和潜水）などの特徴を理解する
- 10 回 潜水方法（スクーバ潜水、全面マスク式潜水、ヘルメット式潜水、混合ガス潜水）などの特

徴、を理解する①

11 回 潜水方法（スクーバ潜水、全面マスク式潜水、ヘルメット式潜水、混合ガス潜水）などの特徴、を理解する②

12 回 事業者が安全に潜水士に作業させるためにどのようなことをするのかを理解する

13 回 送気系統とは①（逆止弁、調節空気槽、予備空気槽、流量計など）

14 回 送気系統とは②（逆止弁、調節空気槽、予備空気槽、流量計など）

15 回 予備空気槽の計算①

16 回 予備空気槽の計算②

17 回 潜水器の特徴、定期点検の頻度を理解し覚える。

18 回 高気圧障害の循環器

19 回 高気圧障害の呼吸器

20 回 高気圧障害の神経系

21 回 水圧が関係する高気圧障害（減圧症、窒素酔い）

22 回 水圧が関係する高気圧障害（副鼻腔障害、酸素中毒、二酸化炭素中毒）

23 回 水圧が関係する高気圧障害（一酸化炭素中毒、骨壊死など）

24 回 心肺蘇生法①

25 回 心肺蘇生法②

26 回 潜水に関する関係法令①

27 回 潜水に関する関係法令②

28 回 過去問を解く①

29 回 過去問を解く②

30 回 後期試験の振り返り

授業の方法

* 本講義では、具体的な例を挙げて説明する

* 授業内で過去問を多く解く

教材

* コンデックス情報研究所編著『潜水士要点まとめ＋よく出る問題』（2023 年、成美堂出版）

* 授業で解く過去問は、必要に応じて授業内で適宜配布する。

評価の方法

* 試験 50%、授業への参画 20%、課題への取り組み 30%で総合的に評価する。

* 前・後期一回ずつ抜き打ちでノートチェックを行う。講義内容だけでなく、事後学習の内容も確認する

授業外での学習方法

- * 事後授業として、授業内で疑問に思ったことを抽出し、自身で調べその結果をノートに書き出そう
- * 授業内で習った内容をまとめたフレーズ集を覚える
- * 過去問を多く解く

実務経験と授業科目の関係

- * 潜水士資格保有
- * 海洋生物（魚類、サンゴなど）の調査・研究の経験あり
- * 環境省 みどりの国勢調査 静岡県 調査責任者（1995 年度）

フィールド実習 I

授業の目的・概要

本授業は、地域周辺における生物や自然環境を対象とした観察・調査活動を通して、基礎的なフィールドワーク手法とデータ収集・整理・分析の方法を習得することを目的とする。実際の調査活動に基づき、観察記録の取り方や調査計画の立案、グループでの協働作業を行いながら、科学的な視点で生物多様性や環境の特徴を捉える力を養う。さらに、得られたデータをもとに成果物としてまとめ、発表することで、論理的思考力とプレゼンテーション能力の向上を図る。

科	環境科学科	教員	林
コース	エコテクノロジーコース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年次	年間単位時間	2 単位

目標

- ・地域周辺の生物や環境について観察・記録し、基礎的な調査を行うことができる
- ・調査データを整理・分析し、結果を客観的にまとめることができる
- ・グループで協力しながら調査計画の立案および実施を行うことができる
- ・調査結果をもとに成果物を作成し、わかりやすく発表する力を身に付ける

授業計画

- 第1週 オリエンテーション（授業目的・安全管理・調査の基本）
- 第2週 フィールド調査の基礎（観察方法・記録方法）
- 第3週 地域環境と生態系の理解
- 第4週 調査対象生物の基礎知識①
- 第5週 調査対象生物の基礎知識②
- 第6週 観察記録の取り方（実習）
- 第7週 データ整理方法（表・グラフ）
- 第8週 簡易調査計画の作成
- 第9週 グループ調査計画作成①
- 第10週 グループ調査計画作成②（発表・修正）
- 第11週 現地調査準備（役割分担・機材確認）
- 第12週 模擬調査演習
- 第13週 調査手法の改善検討
- 第14週 中間まとめ①（データ整理）
- 第15週 中間発表①（調査経過報告）
- 第16週 中間発表②振り返りと改善

第 17 週	追加調査計画立案
第 18 週	季節変化と生物活動の関係
第 19 週	継続観察データ収集①
第 20 週	継続観察データ収集②
第 21 週	データ分析①（傾向把握）
第 22 週	データ分析②（比較・考察）
第 23 週	成果物作成①（構成作成）
第 24 週	成果物作成②（文章作成）
第 25 週	成果物作成③（図表整理）
第 26 週	成果物作成④（修正・校正）
第 27 週	プレゼン資料作成①
第 28 週	プレゼン資料作成②
第 29 週	発表練習①
第 30 週	発表練習②（質疑応答対策）
第 31 週	成果物最終調整
第 32 週	成果発表会①
第 33 週	成果発表会②（講評）
第 34 週	振り返りレポート作成
第 35 週	総括・まとめ（全体講評）

授業の方法
フィールドワークによる実践的な学びを中心に実施していく。

教材
特に指定はないが、必要に応じて資料を配布する。

評価の方法
授業への参画 60%、レポート提出 20%、成果発表 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法
事前学習として、調査対象となる生物や地域環境について文献や資料を調べ、観察の視点や調査方法を整理する。事後学習として、授業で得た観察記録やデータを整理・分析し、成果物作成に向けて内容をまとめ直すことで理解を深める。

実務経験と授業科目の関係
教育研究経験を有し、フィールドワークやアクティブラーニングに関する論文を複数執筆している。また、

カリキュラムマネジメントの研究実績もあり、理論と実践を往還させた授業設計が可能である。そのため本授業においても、調査活動の方法論や学習プロセスの設計に基づき、体系的かつ実践的なフィールドワーク指導を行うことができる。

フィールド実習Ⅱ

授業の目的・概要

基礎的な観察・記録・データ整理の手法を発展させ、より研究的・探究的な視点から地域の生物や環境を対象とした調査を実施することを目的とする。学生は自ら研究テーマを設定し、仮説に基づいた調査設計、データ収集、比較分析を行い、科学的根拠に基づいた考察を導き出す力を養う。また、得られた成果を論文形式にまとめ、発表することで、論理的思考力・表現力・プレゼンテーション能力の向上を図り、実践的な探究力の定着を目指す。

科	環境科学科	教員	林
コース	エコテクノロジーコース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年次	年間単位時間	4 単位

目標

- ・地域周辺の生物や環境について観察・記録し、基礎的な調査を行うことができる
- ・調査データを整理・分析し、結果を客観的にまとめることができる
- ・グループで協力しながら調査計画の立案および実施を行うことができる
- ・調査結果をもとに成果物を作成し、わかりやすく発表する力を身に付ける

授業計画

- 第1週 オリエンテーション（Ⅰの振り返り・Ⅱの到達目標設定）
- 第2週 研究テーマの設定①（個人・グループテーマ案）
- 第3週 研究テーマの設定②（絞り込み・仮説設定）
- 第4週 先行研究調査①（文献・事例収集）
- 第5週 先行研究調査②（まとめ・比較）
- 第6週 調査設計の高度化①（変数・観察項目設定）
- 第7週 調査設計の高度化②（調査計画書作成）
- 第8週 調査手法の選定と検証
- 第9週 グループ調査計画発表①
- 第10週 グループ調査計画発表②（改善）
- 第11週 調査準備（機材・記録方法の最適化）
- 第12週 試験調査（パイロット調査）
- 第13週 調査方法の修正・改善
- 第14週 データ収集①
- 第15週 データ収集②
- 第16週 中間まとめ・分析①

第 17 週	中間発表①
第 18 週	フィードバックと再設計
第 19 週	追加調査計画
第 20 週	継続調査①
第 21 週	継続調査②
第 22 週	比較分析①（地域・時期・種別など）
第 23 週	比較分析②
第 24 週	考察の構築①
第 25 週	考察の構築②
第 26 週	論文形式まとめ①（構成）
第 27 週	論文形式まとめ②（本文作成）
第 28 週	論文形式まとめ③（図表整理）
第 29 週	成果物ブラッシュアップ
第 30 週	発表資料作成
第 31 週	発表練習①
第 32 週	発表練習②（質疑応答）
第 33 週	最終発表会
第 34 週	振り返りレポート作成
第 35 週	総括・評価・講評

授業の方法

フィールドワークによる実践的な学びを中心に実施していく。

教材

特に指定はないが、必要に応じて資料を配布する。

評価の方法

授業への参画 60%、レポート提出 20%、成果発表 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

事前学習として、調査対象となる生物や地域環境について文献や資料を調べ、観察の視点や調査方法を整理する。事後学習として、授業で得た観察記録やデータを整理・分析し、成果物作成に向けて内容をまとめ直すことで理解を深める。

実務経験と授業科目の関係

教育研究経験を有し、フィールドワークやアクティブラーニングに関する論文を複数執筆している。また、

カリキュラムマネジメントの研究実績もあり、理論と実践を往還させた授業設計が可能である。そのため本授業においても、調査活動の方法論や学習プロセスの設計に基づき、体系的かつ実践的なフィールドワーク指導を行うことができる。

エキゾチックアニマル

授業の目的・概要

エキゾチックアニマルを扱う仕事（動物園、水族館、ペットショップ等）をする上で必要な知識を身につけるために、主要 4 種類（ハムスター、モルモット、ウサギ、フェレット）のペット動物の分類や生体・生態・特性を理解し、小動物を正しく扱えるようになる。

科	環境科学科	教員	濱崎 裕矢
コース	エコテクノロジーコース	教員の実務経験	-
対象年次	1 年次	年間単位数	1 単位

目標

前期

エキゾチックの概要およびペットや飼育動物の定義を習得することができる。

ハムスターの生体や歴史、飼育時の注意点、病気などを理解し説明できるようになる。

後期

ウサギ・モルモット・フェレットの生体や歴史、飼育時の注意点、病気や症状などを理解し説明することができる。

飼育動物の基礎知識を固めることができる。

授業計画

- 1 回 エキゾチックアニマルとは
- 2 回 ペットの適性について
- 3 回 ハムスターについて（分類、歴史）
- 4 回 ハムスターについて（体の特徴、前軀）
- 5 回 ハムスターについて（体の特徴、後軀）
- 6 回 ハムスターについて（生理的な特徴）

- 7回 ハムスターについて（飼育方法）
- 8回 ハムスターについて（繁殖）
- 9回 ハムスターについて（飼育要因の疾病）
- 10回 ハムスターについて（感染症）
- 11回 モルモットについて（分類・歴史）
- 12回 モルモットについて（体の特徴、前軀）
- 13回 モルモットについて（体の特徴、後軀）
- 14回 モルモットについて（生理的な特徴）
- 15回 モルモットについて（飼育方法）
- 16回 モルモットについて（飼育要因の疾病）
- 17回 モルモットについて（感染症）
- 18回 ウサギについて（分類・歴史）
- 19回 ウサギについて（体の特徴）
- 20回 ウサギについて（生理的な特徴）
- 21回 ウサギについて（飼育方法・繁殖）
- 22回 ウサギについて（成長過程）
- 23回 ウサギについて（飼育要因の疾病）
- 24回 ウサギについて（感染症）
- 25回 フェレットについて（分類・歴史）
- 26回 フェレットについて（体の特徴、前軀）
- 27回 フェレットについて（体の特徴、後軀）
- 28回 フェレットについて（生理的な特徴）
- 29回 フェレットについて（飼育方法）
- 30回 フェレットについて（病気）

板書した内容を教科書・自作プリント・生体を用いて内容を解説していく

教材

カラーアトラス エキゾチックアニマル哺乳類編第三版—種類・生態・飼育・疾病—

⇒著者：霍野 晋吉、横須賀 誠 発行所：緑書房 発行年：2022 年 1 月 20 日

評価の方法

期末試験 80%、授業態度・課題への取り組み 20%

授業外での学習方法

事後学習として、授業ノートをまとめる。授業内容で疑問に思ったことを抽出し、自分で調べてみた結果をノートに整理しておくこと。

実務経験と授業科目の関係

・

家畜学Ⅰ

授業の目的・概要

本授業は、動物業界で活躍するための基礎知識として家畜学の理解を目的とする。家畜動物の定義から始め、ウシ・ブタ・ウマ・ニワトリを中心に、それぞれの概要、体の構造（前軀・後軀・内臓・生理的特徴）、品種、飼育方法（施設・飼料・栄養・管理）を体系的に学ぶ。また、各家畜に共通する疾病の基礎や家畜伝染病予防法の理解を通して、衛生管理と防疫の重要性を習得する。これにより、家畜の生理・飼養・健康管理の総合的知識を身につけ、現場での適切な判断力と実践力を養う。

科	環境科学科	教員	金田
コース	エコテクノロジーコース	教員の実務経験	観光牧場飼育員4年
対象年次	1年次	年間単位数	1単位

目標

前期で家畜動物についての概要、ウシの体の特徴や飼育に関する知識、生産物や疾病およびブタについてのウシの体の特徴について理解することができる。

後期ではブタ飼育に関する知識、生産物や疾病およびウマ、ニワトリについて、体の特徴や飼育に関する知識、生産物や疾病について理解することができる。

授業計画

- 1回 家畜動物の定義について
- 2回 ウシの概要について（ウシとは）
- 3回 ウシの概要について（ウシとは）、ウシの体の構造について（前軀）
- 4回 ウシの体の構造について（後軀）
- 5回 ウシの体の構造について（内臓、生理的特徴）
- 6回 ウシの品種について、ウシの飼育について
- 7回 ウシの飼育について（施設について）

- 8回 ウシの飼育について（餌、栄養について）
- 9回 ウシの疾病について（家畜伝染病予防法）
- 10回 ウシの疾病について（家畜伝染病予防法対象外の疾病について）
- 11回 ブタの概要について
- 12回 ブタの体の構造について（前軀）
- 13回 ブタの体の構造について（後軀）
- 14回 ブタの飼育について（施設について）
- 15回 ブタの飼育について（餌、栄養について）
- 16回 ブタの疾病について
- 17回 ウマの概要について
- 18回 ウマの体の構造について（前軀）
- 19回 ウマの体の構造について（後軀）
- 20回 ウマの品種について（軽種、中間種）
- 21回 ウマの品種について（重種、ポニーなど）、ウマの飼育について（施設について）
- 22回 ウマの飼育について（餌について）
- 23回 ウマの飼育について（用品について）
- 24回 ウマの疾病について（蹄に関わる疾病）
- 25回 ウマの疾病について（蹄以外の疾病）
- 26回 ニワトリの概要について
- 27回 ニワトリの体の構造について
- 28回 ニワトリの品種について
- 29回 ニワトリの飼育について
- 30回 ニワトリの疾病について

授業の方法

板書した内容を教科書・自作プリントを用いて内容を解説していく。

教材

農学基礎セミナー 新版家畜飼育の基礎

⇒著者：阿部 亮、発行日：2014 年 1 月 15 日 第 6 刷発行

評価の方法

期末試験 80%、授業態度・課題への取り組み 20%

授業外での学習方法

事後学習として、授業ノートをまとめる。授業内容で疑問に思ったことを抽出し、自分で調べてみた結果をノートに整理しておくこと。

実務経験と授業科目の関係

観光牧場にてウマの飼育管理及びウシ・ブタ・ヒツジ・ヤギ・ラマなどが飼養される環境で勤務していたため、家畜動物の知識・技術を教えることができる。動物園にて実務経験あり。

魚類生理生態学Ⅰ

授業の目的・概要

魚類と総称される生き物について、その分類・生理・生態の基礎を理解し、水族館やアクアショップなどで要される「飼育管理」ならびに「他者への説明」の能力を培う。

科	環境科学科	教員	土田
コース	エコテクノロジーコース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年	年間単位数	1 単位

目標

【前期】

- ①魚類の分類体系を説明することができる
- ②魚類の体の構造を説明することができる
- ③魚類の多様性を説明することができる

【後期】

- ①魚類の基礎的な生理機能を説明することができる
- ②魚類の繁殖・発達を説明することができる
- ③飼育管理と対象魚種の生理・形態的特性を関連付けることができる

授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 魚類とは
- 第3回 分布と回遊
- 第4回 体形と形態測定
- 第5回 体表の構造
- 第6回 筋肉系

- 第 7 回 骨格
- 第 8 回 摂食・消化系
- 第 9 回 鰓
- 第 10 回 呼吸器
- 第 11 回 循環系と血液
- 第 12 回 腎臓と浸透調節
- 第 13 回 神経系
- 第 14 回 感覚器
- 第 15 回 前期まとめ
- 第 16 回 試験範囲説明
- 第 17 回 発音・発電・発光
- 第 18 回 内分泌系
- 第 19 回 生殖腺と繁殖様式
- 第 20 回 仔魚・稚魚
- 第 21 回 水生環境
- 第 22 回 飼料と栄養
- 第 23 回 魚類の免疫学
- 第 24 回 演習_プレゼンテーション課題への取り組み①
- 第 25 回 演習_プレゼンテーション課題への取り組み②
- 第 26 回 演習_プレゼンテーション課題への取り組み③
- 第 27 回 演習_課題発表①
- 第 28 回 演習_課題発表②
- 第 29 回 試験範囲説明
- 第 30 回 年間まとめ

講義・演習

教材

必要な場合配布する。

評価の方法

期末試験 80%、授業への参画 20%で総合的に判断する。

授業外での学習方法

AQUA TEXT をはじめとした生物飼育施設での飼育管理、日常生活における河川や海の観察を行う。

実務経験と授業科目の関係

魚類寄生虫の基礎研究の経験。

公衆衛生学

授業の目的・概要

本授業は、公衆衛生の基本概念および人と動物の健康を守るための知識と実践的理解を身につけることを目的とする。公衆衛生の定義や疫学の基礎、疾病予防の考え方を学び、狂犬病予防法や感染症法、家畜伝染病予防法などの関連法規を通して行政的対応の仕組みを理解する。また、人と動物の共通感染症についてウイルス・細菌・真菌・寄生虫の各観点から学び、食品衛生や食中毒、環境衛生、水や廃棄物管理、衛生動物など生活環境全般の衛生管理についても扱う。さらに新興・再興感染症など最新の公衆衛生課題にも触れ、現代社会における健康危機管理への対応力を養う。

科	環境科学科	教員	森 聖
コース	エコテクノロジーコース	教員の実務経験	公衆衛生学講師 3年
対象年次	1年	年間単位数	1単位

目標

人々の健康を維持するための知識・方法・歴史について身に付けることができる。

健康維持に対する政策・法律を理解する能力を向上させることができる。

授業計画

第1週 自己紹介/「ガイダンス」体の各部位の名称、最近の公衆衛生上の話題」

第2週 公衆衛生とは

第3週 疫学と疾病予防-1

第4週 疫学と疾病予防-2

第5週 狂犬病予防法

第6週 社会福祉行政・環境衛生法規

第7週 動物の使用管理と関わり合い-1

第8週 動物の使用管理と関わり合い-2

第9週 感染症法_公衆衛生行政法規

第10週 家畜伝染病予防法_公衆衛生行政法規

- 第 11 週 家畜伝染病予防法_公衆衛生行政法規
- 第 12 週 動物の使用管理と公衆衛生-1
- 第 13 週 動物の使用管理と公衆衛生-2
- 第 14 週 人と動物の共通感染症とその対策-1 ウイルス
- 第 15 週 人と動物の共通感染症とその対策-2 細菌
- 第 16 週 人と動物の共通感染症とその対策-3 真菌
- 第 17 週 人と動物の共通感染症とその対策-4 寄生虫
- 第 18 週 病原体等に関する安全対策
- 第 19 週 新興感染症と再興感染症 人畜共通感染症
- 第 20 週 食品衛生法・食中毒
- 第 21 週 食品とアレルギー・動物性食品の衛生
- 第 22 週 食品の保存法・行政・健康危害防止
- 第 23 週 環境衛生・環境問題
- 第 24 週 水の衛生
- 第 25 週 生活環境・廃棄物
- 第 26 週 衛生動物
- 第 27 週 ウイルス__人と動物の共通感染症とその対策
- 第 28 週 細菌__人と動物の共通感染症とその対策
- 第 29 週 真菌__人と動物の共通感染症とその対策
- 第 30 週 最近の公衆衛生に関連する情報の解説。

授業の方法

口述・座学。スライド、参考資料（そのうち、重要事項は学生に音読させる）にて行う。

教材

- 1 2022 EP.動物看護師教科書 5 巻、②愛玩動物飼養管理士の教本 2 級と 1 級、③放送大学の関連科目__バイオサイエンス、食の安全、など。

評価の方法

宿題回答成績や期末試験 80%、授業への参加意欲 10%、課題への取り組み 10%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

事前に関連する公衆衛生法規や感染症の基礎を調べ、授業内容を予習する。事後は学習内容を整理し、疾病予防や衛生管理の観点から復習・理解を深める。

実務経験と授業科目の関係

獣医師・博士（医学）の知識に基づき、授業科目関連の最新情報をインターネット検索・整理し、講義資料を作成する。

昆虫学 I

授業の目的・概要

昆虫類は地球の幅広い環境に適応しているが、その優れた能力から我々が学ぶことは非常に多く、人類が豊かな生活をしていく上で「昆虫学」という科学分野は必要不可欠である。

前期で「昆虫とは何か」「昆虫の能力・食性」を説明できるようになり、後期では「昆虫の擬態や社会性」について説明できるようになり、「昆虫の分類の基礎」を理解する。

科	環境科学科	教員	吉原
コース	エコテクノロジーコース	教員の実務経験	・
対象年次	1 年	年間単位数	1 単位

目標

前期

- 「昆虫とは何か」を説明できる。
- 「昆虫の能力」について説明できる。
- 「昆虫の食性」について説明できる。

後期

- 昆虫の擬態や社会性について説明できる。
- 様々な生息域に住む昆虫について説明できる。
- 昆虫の分類の基礎について理解する。

授業計画

- 1 回 アイスブレイク、自己紹介
- 2 回 昆虫とは
- 3 回 昆虫と人との関わり
- 4 回 昆虫の体のつくり①
- 5 回 昆虫の体のつくり②
- 6 回 昆虫の運動能力①
- 7 回 昆虫の運動能力②
- 8 回 昆虫の交信
- 9 回 昆虫の生殖
- 10 回 昆虫の食性について①
- 11 回 昆虫の食性について②
- 12 回 寄生者について

- 13 回 昆虫を扱う施設紹介
- 14 回 各回で紹介出来なかった資料の紹介、試験対策
- 15 回 試験対策
- 16 回 水生昆虫①
- 17 回 水生昆虫②
- 18 回 海洋島の昆虫
- 19 回 擬態をする昆虫①
- 20 回 擬態をする昆虫②
- 21 回 昆虫の飛翔①
- 22 回 昆虫の飛翔②
- 23 回 社会性の昆虫①
- 24 回 社会性の昆虫②
- 25 回 益虫と害虫
- 26 回 分子情報による系統推定
- 27 回 希少な昆虫について
- 28 回 各回で紹介出来なかった資料の紹介
- 29 回 各回で紹介出来なかった資料の紹介、試験対策
- 30 回 試験対策

授業の方法

講義

教材

スライドを使用する。必要に応じて参考資料を配布する。

評価の方法

期末試験 80%、授業態度 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

事前学習として、次回講義に関する情報を調べておく。普段から昆虫を見る・触れる等の経験をしておく。

事後学習として、自分でメモを取る・配布資料を読み直す等、講義内容を振り返り、気になる昆虫に関して詳しく説明が出来るようになる。

2026 年度

実務経験と授業科目の関係

両生爬虫類学Ⅰ

授業の目的・概要

両生類および爬虫類の行動や生活史を中心とした生態などについての基礎的な知識を学び、各分類群の生物学的特徴や環境への適応を理解する。あわせて、種ごとの特性に基づいた取り扱いや飼育・管理に関する知識を身につけ、動物関連分野への就職に必要な基礎的能力を養う。

科	環境科学科	教員	阿南 咲
コース	エコテクノロジーコース	教員の実務経験	-
対象年次	1 年	年間単位数	1 単位

目標

前期

両生類の分類・生活史・行動生態について具体的に理解し説明できる。

得られた知識から両生類にとって適切な調査方法や飼育方法を選択し、それについて説明できる。

後期

爬虫類の分類・生活史・行動生態について具体的に理解し説明できる。

得られた知識から爬虫類にとって適切な調査方法や飼育方法を選択し、それについて説明できる。

授業計画

1 回 オリエンテーション／本講義について

2 回 両生類について

3 回 両生類の分類

4 回 両生類の生活史①

5 回 両生類の生活史②

6 回 両生類の行動生態①

7 回 両生類の行動生態②

- 8回 両生類の調査方法
- 9回 両生類の保全について
- 10回 両生類の飼育環境
- 11回 両生類の飼育方法
- 12回 日本の両生類相
- 13回 世界の両生類相
- 14回 試験対策①
- 15回 試験対策②
- 16回 爬虫類について
- 17回 爬虫類の分類①
- 18回 爬虫類の分類②
- 19回 爬虫類の生活史①
- 20回 爬虫類の生活史②
- 21回 爬虫類の行動生態①
- 22回 爬虫類の行動生態②
- 23回 爬虫類の調査方法
- 24回 爬虫類の保全について
- 25回 試験対策①
- 26回 試験対策②
- 27回 爬虫類の飼育環境
- 28回 爬虫類の飼育方法
- 29回 日本の爬虫類相
- 30回 世界の爬虫類相

授業の方法

パワーポイントによる講義

2026 年度

教材

必要に応じて参考資料を配布する

評価の方法

期末試験 80%、授業態度・出席率 20%

授業外での学習方法

授業後に学習した内容を自身で復習し、ポイントとなる部分や疑問に思った点についてより詳細に調べ、ノートにまとめる

実務経験と授業科目の関係

-

博物館学Ⅰ

授業の目的・概要

本授業では、動物園や水族館を含む「博物館」という施設について、やさしく基礎から学ぶ。博物館の役割や仕事の内容を知り、動物に関わる職業とのつながりを理解することを目的とする。専門的な知識の習得よりも、体験や話し合い、簡単な制作活動を通して、「見る・考える・伝える」力を身につけることを重視する。また、展示づくりや発表を通して、自分の考えを表現する経験を積み、将来の進路であるネイチャーガイドや飼育・保全分野で必要となる基礎的な力を育てる。さらに、仕事として人と関わるためのコミュニケーションの大切さについても学ぶ。

科	環境科学科	教員	濱崎 裕矢
コース	エコテクノロジーコース	教員の実務経験	・
対象年次	1 年次	年間単位数	1 単位

目標

- ・博物館や動物園・水族館の基本的な役割を理解できるようになる。
- ・動物に関わるさまざまな仕事の内容を知り、自分の進路と結びつけて考えられるようになる。
- ・展示づくりや発表を通して、自分の考えを相手に伝えることができるようになる。
- ・来館者対応やイベント企画などを通して、人と関わる仕事に必要なコミュニケーションの基礎を身につける。

授業計画

- 第 1 回 ガイダンス（この授業でやること）
- 第 2 回 行ったことある？（動物園・水族館の思い出）
- 第 3 回 動物園や水族館って何の施設？
- 第 4 回 近くにある施設を知ろう（かんたん紹介）
- 第 5 回 先生の話（クラゲと仕事の話）

第 6 回	いろいろな博物館（ざっくり知る）
第 7 回	博物館の仕事①（集める・守る）
第 8 回	博物館の仕事②（調べる・伝える）
第 9 回	学芸員ってどんな人？
第 10 回	動物園の裏側（えさ・掃除・健康管理）
第 11 回	動物園の仕事いろいろ
第 12 回	水族館の仕事いろいろ
第 13 回	展示ってどうやって作る？
第 14 回	人気の展示を考える（なぜ人気？）
第 15 回	クラゲ展示を考えてみよう
第 16 回	テーマを決める（好きな動物 OK）
第 17 回	どう見せるか考える
第 18 回	ポスターを作る①
第 19 回	ポスターを作る②
第 20 回	発表してみよう
第 21 回	博物館で働く人たち
第 22 回	お客さんとの話し方
第 23 回	子ども向けイベントを考える
第 24 回	SNS で伝える（かんたんに）
第 25 回	トラブル対応（安全・クレーム）
第 26 回	どんな施設で働きたい？（自由に考える）
第 27 回	内容を具体的にする
第 28 回	発表準備
第 29 回	発表
第 30 回	ふり返り（できたことを確認）

授業の方法

講義形式

教材

特に指定はないが、必要な資料を授業中に適宜配布する。

評価の方法

試験 60%、授業への参画 20%、課題 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

授業の予習をノートにまとめておくことを事前学習とし、授業の内容をノートにまとめ、以後の博物館巡りをする際の注目ポイントをノートに記しておくことを事後学習とする。

実務経験と授業科目の関係

・

アナウンス演習

授業の目的・概要

本授業では、動物園や水族館のショーなどで活躍するパフォーマーに必要な基礎的な力に触れることを目的とする。専門的な技術の習得よりも、人前で話すことに慣れ、声を出す、笑顔で伝える、相手に分かりやすく話すといった基本的なコミュニケーション力を身につけることを重視する。授業では、あいさつや簡単なアナウンス練習、ショーのまね、ミニ発表などを通して、無理なく段階的に経験を積む。また、イルカの研究や現場の話を題材に、「専門的な内容をやさしく伝える力」についても学ぶ。最終的には、簡単なショー形式の発表を行い、自分の言葉で伝える達成感を得ることを目指す。

科	環境科学科	教員	多田
コース	エコテクノロジーコース	教員の実務経験	・
対象年次	1 年次	年間単位時間	2 単位

目標

- ・あいさつや返事などを通して、基本的な発声を行うことができる。
- ・人前で短いアナウンスや自己紹介を行うことができる。
- ・笑顔や声の大きさ、話す速さを意識して、相手に分かりやすく伝えることができる。
- ・簡単なショー形式の発表に参加し、自分の役割を果たすことができる。

授業計画

第 1 週	前期オリエンテーション（安心して参加するルール）
第 2 週	あいさつ練習（声を出す・返事）
第 3 週	声の出し方（姿勢・呼吸）
第 4 週	ゆっくり話す（短い文を読む）
第 5 週	笑顔の練習（第一印象）
第 6 週	自己紹介（名前＋好きな動物）

第 7 週	かんたん な ア ナ ウ ン ス ①	(読 む だ け)
第 8 週	かんたん な ア ナ ウ ン ス ②	(少 し 長 く)
第 9 週	見 る 力 ①	(シ ョ ー 映 像 を 見 る)
第 10 週	見 る 力 ②	(良 い と こ ろ を 見 つ け る)
第 11 週	ま ね し て み る ①	(短 い フ レ ー ズ)
第 12 週	ま ね し て み る ②	(動 き + 声)
第 13 週	ミ ニ 発 表 ①	(10 ～ 20 秒)
第 14 週	ミ ニ 発 表 ②	(少 し 慣 れ る)
第 15 週	課 題 ー 「 イ ル カ と 人 と の コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン を 考 え る 」	
第 16 週	後 期 オ リ エ ン テ ー シ ョ ン	(目 標 確 認)
第 17 週	声 ・ 笑 顔 の 復 習	
第 18 週	聞 き や す い 話 し 方 (間 ・ 強 弱)	
第 19 週	イ ル カ の 話 を し て み よ う (や さ し く 伝 え る)	
第 20 週	船 の 仕 事 ・ 現 場 の 話	
第 21 週	お 客 さ ん に 伝 え る に は ? (専 門 → や さ し く)	
第 22 週	シ ョ ー の 流 れ を 知 る (導 入 ・ 盛 り 上 げ)	
第 23 週	簡 単 な MC ①	(あ い さ つ)
第 24 週	簡 単 な MC ②	(説 明 ・ つ な ぎ)
第 25 週	お 客 さ ん と の や り と り (声 が け)	
第 26 週	ト ラ ブ ル 時 の 対 応 (迷 子 ・ 注 意)	
第 27 週	ミ ニ シ ョ ー づ く り ①	(グ ル ー プ ・ ま ね OK)
第 28 週	ミ ニ シ ョ ー づ く り ②	(練 習)
第 29 週	ミ ニ シ ョ ー づ く り ③ (通 し)	
第 30 週	年 間 の 振 り 返 り ー 「 で き た こ と 」 を 全 員 で 確 認	

授業の方法

演習形式を中心にグループワークを取り入れ、実践的な学びとなるよう進めていく。

教材

必要な資料を作成し、授業中に配布していく。

評価の方法

試験(発表)80%、授業への参画 20%で総合的に評価する

授業外での学習方法

動物園や水族館のショーを参考に、話し方や表情、伝え方の工夫を観察し、自分の課題や目標を整理することを事前学習とする。事後学習として、発声やアナウンス練習を振り返り、相手に分かりやすく伝える話し方を意識して復習し、次回に向けて改善点を確認しておくこと。

実務経験と授業科目の関係

-

フィールドワーク概論

授業の目的・概要

さまざまな現場において主体的に活動を行なうための前段階として、フィールドワークに関する基礎的な知識・技能などを習得することを目指す。

科	環境科学科	教員	前畑
コース	エコテクノロジーコース	教員の実務経験	○
対象年次	1 年	年間単位数	2 単位

目標

フィールドワークの基本概念や必要とされる知識・技能について説明をすることができる。また、フィールドワークを安全かつ適切な方法で遂行し、かつ仮説を検証するための科学的データを十分に得られるような具体的計画を立てることができる。

授業計画

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 FW とは何か？
- 第 3 回 リスクアセスメント
- 第 4 回 安全管理 (1) 春のリスク
- 第 5 回 FW 実習 (1) 春の自然観察
- 第 6 回 記録法 (1) カメラ・レコーダの使い方
- 第 7 回 記録法 (2) スケッチの描き方
- 第 8 回 記録法 (3) 野帳の使い方
- 第 9 回 地理 (1) 地図記号・等高線・地形断面図
- 第 10 回 地理 (2) 山座同定・現在地特定・地図投影法
- 第 11 回 地理 (3) GIS

第 12 回	安全管理 (2) 夏のリスク
第 13 回	気象 (1) 気象通報・天気図作成
第 14 回	気象 (2) 気象通報・天気図作成
第 15 回	気象 (3) 天候予測
第 16 回	文献調査法 (1) 文献探索
第 17 回	文献調査法 (2) 文献引用
第 18 回	安全管理 (3) (秋のリスク)
第 19 回	人文・社会 (1) インタビュー・アンケート
第 20 回	人文・社会 (2) フィールドリテラシー
第 21 回	思考・発想法 (1)
第 22 回	思考・発想法 (2)
第 23 回	FW 実習 (2) 秋の自然観察
第 24 回	データのまとめ方
第 25 回	安全管理 (4) (冬のリスク)
第 26 回	FW 計画書作成 (1)
第 27 回	FW 計画書作成 (2)
第 28 回	FW 実習 (3)
第 29 回	まとめ (1)
第 30 回	まとめ (2)

授業の方法

座学、演習、野外活動

教材

必要に応じて別途資料を配布する。

評価の方法

平常点 40% (出席率、授業態度等)、試験 30%、課題への取り組み 30% で総合的に評価する。

授業外での学習方法

事後学習として授業内で学んだことを復習し、普段の生活の中で実践してみることを。

実務経験と授業科目の関係

大学および研究機関において、生態学分野の研究に従事し、野外調査の実務経験を有する。本科目においては、その活動で培った知見を活かし、フィールドでの安全確保や調査手法などについての理解を促す。

生体管理概論・実習Ⅰ

授業の目的・概要

前期後期を通じて動物を扱う仕事（ペットショップ、動物園、水族館、動物保護スタッフ）や愛玩動物飼養管理士など資格で必要な動物飼育方法・生体管理方法を身につける。具体的には、飼育棟内小動物・鳥・家畜動物・魚類の飼育方法や健康管理方法を実践実習を通して習得する。

前期では基本的な飼育などの実技学習を通じた授業で時間内での業務を意識した生体管理を行うことを目標にする。後期では実際の職場などでも用いられる実践的な内容の学習を行うことを目標にする。

科	環境科学科	教員	金田、植田、瀧崎
コース	エコテクノロジーコース	教員の实務経験	○
対象年次	1年	年間単位数	2単位

目標

前期

- ・飼育管理における、掃除・給餌・健康チェック・ケア・設備管理を理解し身につける。危険予測や常に安全を考慮した行動することができるようになる。
- ・実習活動時にメンバーとコミュニケーションをとり、報告・連絡・相談などの社会人に必要なスキルを身に着ける。

後期

- ・前期に身につけた知識および技術を応用し更に良い飼育環境をつくるために考え行動することができる。
- ・グループ内でその日の目標と反省を行いながら作業をすすめ、自分の頭で考えながら飼育管理を行う。
- ・就職や進級時の卒業研究に役立つ実践的なスキル・知識を身に着ける。

授業計画

[前期]

- 第1週 小動物飼育 生体管理について（飼育管理について、動物の基礎知識）
水槽管理 生体管理について（飼育管理について、動物の基礎知識）
- 第2週 小動物飼育 生体管理について（飼育動物の飼育方法）
水槽管理 生体管理について（飼育動物の飼育方法）
- 第3週 小動物飼育 生体管理について（設備・用品等の使用方法）
水槽管理 生体管理について（設備・用品等の使用方法）
- 第4週 小動物飼育 ハムスターの飼育実践（飼育作業）

水槽管理 ヒョウモントカゲモドキ（レオパードゲッコー）飼育実践

第5週 小動物飼育 掃除・給餌について飼育実践

水槽管理 水換えについて(RO 水や浄水器説明、人工海水作成含む)、バッキングについて

第5週 小動物飼育 健康管理について飼育実践

水槽管理 水槽の掃除、美化について

第6週 小動物飼育 保定方法について飼育実践

水槽管理 機材メンテナンスについて

第7週 小動物飼育 ハムスターの飼育実践（飼育作業）

水槽管理 病気についてと魚の健康チェックについて(魚の導入含む)

第8週 小動物飼育 ハムスターの飼育実践（健康管理/用品・衛生管理）

水槽管理 魚の健康管理について

第9週 小動物飼育 ウサギの飼育実践（飼育作業）

水槽管理 餌について

第10週 小動物飼育 ウサギの飼育実践（健康管理/用品・衛生管理）

水槽管理 バクテリアについて

第11週 小動物飼育 モルモットの飼育実践（飼育作業）

水槽管理 水質について①-主に淡水(水質検査含む)

第13週 小動物飼育 モルモットの飼育実践（健康管理/用品・衛生管理）

水質について②-主に淡水(水質検査含む)

第14週 小動物飼育 フェレットの飼育実践（飼育作業）

ろ過について

第15週 小動物飼育 フェレットの飼育実践（健康管理/用品・衛生管理）

水槽の立ち上げについて

第16週 前期試験

第17週 前期まとめ・調べ学習

第18週 試験返却・試験の振り返り

[後期]

第19週 小動物飼育 チンチラの飼育実践（飼育作業）

レイアウトについて-淡水編

第20週 小動物飼育 チンチラの飼育実践（健康管理/用品・衛生管理）

レイアウトについて-海水編

第21週 小動物飼育 デグーの飼育実践（飼育作業）

コケの種類と原因、対策について（基礎）

第22週 小動物飼育 デグーの飼育実践（健康管理/用品・衛生管理）

コケの種類と原因、対策について（応用）

第23週 小動物飼育 ハリネズミの飼育実践（飼育作業）

水草育成について①-種類、育成環境

第24週 小動物飼育 ハリネズミの飼育実践（健康管理/用品・衛生管理）

水草育成について②-維持管理

第25週 小動物飼育 フクロモモンガの飼育実践（飼育作業）

サンゴ育成について①-種類、育成環境

第29週 小動物飼育 フクロモモンガの飼育実践（健康管理/用品・衛生管理）

サンゴ育成について②-維持管理

第 30 週 後期試験

第 31 週 後期まとめ・調べ学習

第 32 週 試験返却・試験の振り返り

第 33 週 小動物飼育 ファンシーラットの飼育実践（飼育作業）

水槽管理における淡水と海水の違い

第 34 週 小動物飼育 ファンシーラットの飼育実践（健康管理/用品・衛生管理）

水槽のリセットについて(半リセット含む)

第 35 週 1 年の振り返り

授業の方法

講義形式にて飼育の基礎を理解した後、実習を行っていく。

教材

カラーアトラス エキゾチックアニマル 哺乳類編・鳥類編 その他配布資料

評価の方法

試験 80%、平常点 20%（出席率や授業態度、ノート提出）で総合的に評価する。

授業外での学習方法

小動物のハンドリングや健康チェック

エキゾチックアニマル、両生爬虫類、飼育用品概論のノートの見直し

実務経験と授業科目の関係

動物飼育の実務経験を有しており、日常的な給餌・清掃・健康管理から個体ごとの観察や環境整備まで幅広い現場経験を持つ。その経験を活かし、小動物および水生生物の飼育管理や健康管理について、実務に即した具体的な指導を行うことで、現場対応力の育成に寄与する。